

# 『ピア・サポートを通じた 心の育成』

藤枝市立葉梨西北小学校

月別	ピア・サポート活動 ピア・サポートを中心に据えた行事	プログラム	職員研修
4月	ペア・わくわく班顔合わせ 1年生を迎える会（ピア・サポート・あいさつの紹介・呼びかけ）	計画的にプログラムを組んで取り組むよう各学年への呼びかけ。授業等で実施（ピア・サポート演習資料等活用） ①出合い	【職員会議】 本校におけるピア・サポートの目標・各指導部の方針と連携したピア・サポートの位置づけ
5月	運動会	②言葉使い・話し方・聞き方	授業を通してのピア・サポート 学級での振り返りの時間（価値付けと認め合い）
6月	西北チャレンジカップ（～10月まで） わくわく班遊び①5年 全校代表委員会「西北小学校をよりよくするために①（ピア・サポートを広めるためにできることを考えよう）」	③思いやり	
7月	わくわく班遊び②4年		
9月	わくわく班遊び③3年	④自己表現	
10月	西北チャレンジカップ月間 わくわく班遊び④2年 全校代表委員会「西北小学校をよりよくするために②（全校みんながもっと仲良くなるためにはどうしたら良いだろう）」	⑤信頼・友情	
11月	全校遊び①（だるまさんの一日）	⑥いじめ対応	
12月	わくわく班遊び⑤1年		
1月	全校遊び②（サッカー大会） ペア遊び 百人一首大会		
2月	児童会の引継ぎ（活動の振り返りから成果と課題を見つけ、来年度へ生かす）	⑦情報の扱い方	
3月	六年生ありがとうの会 わくわく班遊び⑥	⑧活動の振り返り	

## 1 本校のピア・サポート

本校では、重点目標を「つよく やさしく～自ら動く力 伝えきる力～」としている。つよい心・やさしい心の育成のために「ナイス ピア・サポート！」の日常化を目指し、児童が様々な活動に取り組んでいる。主なピア・サポート活動として、①行事を通したピア・サポート②授業などの日常生活を通したピア・サポートがある。学校生活における様々な場面で、ピア・サポート活動の充実に向けて、継続した活動を行っている。また、小規模校のよさを生かし、児童が主体的な活動ができるよう、全ての教職員で一人一人の子どもをサポートしている。

## 2 特徴的な活動

### ①行事を通したピア・サポート

- ・1年生を迎える会 <提言1>

6年生と児童会が中心となって、「ピア・サポート」について劇で伝えた。入学したばかりの1年生に伝えることで、在校生にも再度認識する場となった。また、5年生が1年間取り組んできたあいさつリーダーの取り組みも発表し、挨拶がピア・サポートの1つであることも共通認識することができた。

- ・全校代表委員会 <提言4>

今年度より、全校でピア・サポートについて話し合う場を設定した。前期では、議題を「ピア・サポートを広めるためにできることを考えよう」とし、全校からの意見を募った。これまでの姿をふり返り、これからどうしていくか、児童の言葉で伝え合ううちに、もっと仲良くなりたいという思いが強くなった。そこで、後期は、「全校みんながもっと仲良くなるためにはどうしたら良いだろう」を議題に話し合い、全校で遊ぶことを決め、実行することができた。

### ②授業などの日常生活を通したピア・サポート

- ・聴く・話すステップ表 <提言5><提言7>

授業の中で目指す姿を段階別に表し、定期的なふり返りを行うことで、自分の成長を見ることができている。思いを持って授業に参加することが、ピア・サポートへとつながることを実感することができた。

- ・ピア・サポートカードの記入と紹介 <提言6><提言7>

学級内で見つけたピア・サポートを、各クラスに配布したカードに記入していく。集まったカードは掲示板で見える化したり、昼の放送で紹介したりして、日常の中で当たり前にあるピア・サポートを価値づけていった。

### ③その他

- ・教職員によるサポート体制 <提言2><提言3>

年度初めの職員会議にて、ピア・サポートのねらいやこれまでの取り組みの共通理解を図った。また、昨年度の反省から今年度はどんなことに力を入れていくか三指導部で構想の中にピア・サポートを位置づけた。

- ・家庭や地域へ <提言8>

学校便り「音さゆる」を通して、児童達のピア・サポートの様子を伝えた。

## 3 本年度の成果と来年度に向けて

成果として、全校で取り組む活動が増えたことで、一人一人がピア・サポートを意識して取り組むことができた。特に、わくわく班（縦割）活動を児童主体で取り組むことで、児童同士が自然にピア・サポートし合う姿が増えてきた。

課題として、活動が学校内で完結してしまうことが多かった。児童が学校外でも主体的にピア・サポートを行ったり、地域の方々が児童のために関わってくださることに気づき、感謝の気持ちにつなげたりして、どんな場面においてもピア・サポート活動が自ら進んでできるようにしていきたい。